

平成30年度 学校生活相談センターの相談状況について(10月末現在)

心の支援課

◆件数・回数の同期比較◆

	前年度		本年度	
	H29年度(～10月末)		H30年度(～10月末)	
相談件数	424件	→	492件	(68件増)
延べ回数	591回	→	813回	(222回増)

1 相談の形態

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合	
電話	平日昼間	207	42.1%	320	39.4%
	夜間・休日	236	48.0%	375	46.1%
文書 (メール・FAX・手紙)	49	9.9%	104	12.8%	
来所	0	0.0%	14	1.7%	
計	492	100.0%	813	100.0%	

・前年度同期と比較すると、昼間・夜間ともに増加傾向にあり、相談件数は2割弱、延べ回数は約4割増加している。

・来所相談は、電話相談の後來所相談を希望する場合が多いため、延べ回数のみ14件となっている。

2 連携した案件

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
相談者から連携希望があった案件	30	6.1%	57	7.0%
傾聴を主とした案件	462	93.9%	756	93.0%
計	492	100.0%	813	100.0%

主な連携先

小中学校	… 24件	私学振興課	… 0件
県立高校	… 19件	こども・家庭課	… 0件
県教育委員会他課	… 3件	児童相談所	… 0件
教育事務所	… 8件	子ども支援センター	… 0件
市町村教育委員会	… 3件		

3 月別相談件数

区分	件数	割合	延べ回数	割合
4月	52	10.6%	75	9.2%
5月	79	16.1%	109	13.4%
6月	73	14.8%	123	15.1%
7月	79	16.1%	141	17.4%
8月	65	13.2%	116	14.3%
9月	63	12.8%	113	13.9%
10月	81	16.4%	136	16.7%
11月	0	0.0%	0	0.0%
12月	0	0.0%	0	0.0%
1月	0	0.0%	0	0.0%
2月	0	0.0%	0	0.0%
3月	0	0.0%	0	0.0%
計	492	100.0%	813	100.0%

4 相談者の状況

(1) 主訴(相談者全体)

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合	
子どもに関すること	いじめ・嫌がらせ	51	10.4%	60	7.4%
	不登校・登校渋り	55	11.2%	94	11.6%
	その他	112	22.7%	175	21.5%
学校・教師に関すること	145	29.5%	244	30.0%	
家庭・私生活に関すること	56	11.4%	148	18.2%	
意見・問い合わせ	50	10.2%	58	7.1%	
その他	23	4.6%	34	4.2%	
計	492	100.0%	813	100.0%	

(2) 主訴(子どものみ)

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合	
子どもに関すること	いじめ・嫌がらせ	20	10.7%	26	9.0%
	不登校・登校渋り	6	3.2%	13	4.5%
	その他	76	40.4%	124	42.9%
学校・教師に関すること	32	17.0%	57	19.7%	
家庭・私生活に関すること	26	13.8%	33	11.4%	
意見・問い合わせ	12	6.4%	14	4.9%	
その他	16	8.5%	22	7.6%	
計	188	100.0%	289	100.0%	

(3) 相談者の内訳

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
子ども	188	38.2%	289	35.5%
本人	188	38.2%	289	35.5%
本人以外の子ども	0	0.0%	0	0.0%
大人	296	60.2%	516	63.5%
父	36	7.3%	44	5.4%
母	222	45.1%	421	51.8%
祖父	5	1.0%	6	0.7%
祖母	10	2.1%	17	2.1%
その他の大人	23	4.7%	28	3.5%
不明	8	1.6%	8	1.0%
計	492	100.0%	813	100.0%

・前年度まで約3割を占めていた児童生徒からの相談が、約4割をキープしている。
 ・「子どもに関すること」を見ると、不登校・登校渋りの相談は、本人より保護者からの相談が多く、約9割を占める。しかし、児童生徒本人からの不登校・登校渋りの相談だけを見ると、延べ回数が前年度同期と比べ増加傾向となっている。これは、自ら相談できている不登校・登校渋りの悩みを抱える児童生徒が、継続的に相談していることの表れでもある。

5 相談対象者の状況

(1) 相談対象者の性別

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
男	219	44.5%	385	47.4%
女	234	47.6%	379	46.6%
不明	39	7.9%	49	6.0%
計	492	100.0%	813	100.0%

(2) 相談対象者の学校区分

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
就学前	4	0.8%	4	0.5%
小学生(低学年)	39	7.9%	56	6.9%
小学生(高学年)	70	14.2%	120	14.8%
中学生	140	28.5%	246	30.2%
高校生	191	38.8%	331	40.7%
その他	17	3.5%	17	2.1%
不明	31	6.3%	39	4.8%
計	492	100.0%	813	100.0%

(3) 学校の所在地域

区分	相談件数	割合	延べ回数	割合
北信	123	25.0%	314	38.6%
東信	44	8.9%	63	7.8%
中信	47	9.6%	77	9.5%
南信	36	7.3%	76	9.3%
その他	2	0.4%	2	0.2%
不明	240	48.8%	281	34.6%
計	492	100.0%	813	100.0%

・相談対象者は、女子の割合が若干高い。

・前年度同期に比べ、相談対象者に占める高校生の件数が増加傾向にある(相談件数+42件、延べ回数+114件)。

10月メモ

・依然前年度を上回るペースで、相談件数、延べ回数とともに増えている。延べ回数に関しては、5月から毎月100件を超える状態が続いている。

・10月に限っては、相談対象者が男子の件数が女子の件数を上回った。特に、夜間・休日窓口は、男子の割合が高かった。また、相談対象者が小学校高学年である件が19件と多かった(前年度10月:7件)。その主訴としては、学校・教師の対応についてが目立った。

・関係機関との連携を希望する案件でも複数回相談があったが、その都度関係機関と連絡を取り合い、対応について情報共有することができた。

